樹上で活動する哺乳類

「ほっとやまはく」タイム㊽

山口県の森林率は7割を超えています。森は多様な生き物に生活の場を提供しています。特に葉の茂る樹冠は光合成の場で、さまざまな動物たちの活動を見ることができます。哺乳類の樹冠を中心とする樹上での活動の様子を紹介します。

ニホンザル

ニホンザルは、霊長目オナガザル科に属し、群れで生活する哺乳類の代表種です。サルたちはするすると木を登り、樹冠で採食を行います。移動時も枝先から隣の木の枝先に渡ります。好物のヤマモモなどの実が赤く熟すと、木がサルの群れでだんご状態になります。谷を隔ててサルたちが樹上で採食している姿を見るのは感動的です。

ニホンザルは雑食性で、自分たちの行動圏内に利用できる植物や昆虫などの動物がどのように分布しているのかを、長い年月をかけて熟知していると考えられます。季節に応じて、その時期に豊富にある動植物を求め、移動しながら食べます。

採食するニホンザル

ムササビ

ムササビは、げっ歯目リス科の哺乳類で、鼻先から尾の付け根までの頭胴長は約40㌢、尾の長さ約35㌢、体重約1㌔で、樹上性の哺乳類の代表です。首から前肢、前肢から後肢、後肢から尾の途中まで、滑空するための飛膜が発達しています。この飛膜により、地上に降りることなく移動できます。県内では森が広くつながる里山から奥山まで広く生息しています。

ムササビは昼間、大木の樹洞で休息し、日没後に活動を開始します。植物食性動物で、樹木の葉、花、実などを季節に応じて食べます。食べる葉や実の付いている枝を鋭い前歯で切り、前肢で持って食べます。ムササビはすべてを食べ尽くすのではなく、必要な部分のみ食べ、残りを食痕として樹の下に落とします。これらの食痕により、食性と行動圏を推定しています。

ヤブツバキの木に採食に来たムササビ

ヤマモモの食痕、枝の切り口は斜めになっているのが特徴

ニホンモモンガ

ニホンモモンガもムササビと同じリス科の哺乳類です。ムササビより小さく、頭胴長約15㌢、尾の長さ約12㌢、体重約200㌘です。標高の高い山域に生息しています。ムササビ同様飛膜を持ち、滑空します。樹上での動きが早く、夜行性であり、その実態はほとんど分かっていませんでしたが、定点観察を行っている周南市鹿野の調査地で、昼間寝ている樹洞が特定できたことで、自動ビデオカメラで観察できるようになりました。

森には多くの樹洞があると考えられますが、一本一本の木を下から調べても、モモンガが営巣できるような樹洞はたくさん見つかっていません。また、モモンガはムササビのような分かりやすい食痕は残しません。そのためいまだにどのように森を利用して生活しているのかが分かっていませんが、安定して生息していることは間違いないようです。

巣箱に興味を持ったニホンモモンガ

ニホンテン

ニホンテンは食肉目イタチ科の動物です。雄の頭胴長は約47㌢、尾の長さは約19㌢、体重は約1・5㌔です。雌はやや小さく体重は約1㌔です。山際の家屋の天井裏に住み着くことがある身近な動物です。木に登り、カキなど樹上の果実を食べますが、ノネズミなども捕食する雑食性動物です。

ヤマネやヒメネズミが利用する巣箱にテンが時々やってきます。ふたが開かないように固定されているので、捕食はできませんが、匂いにひきつけられているのかもしれません。ヤマネが利用する高さ5㍍の樹洞にもやってきて、出入り口をにおい、引っかいていました。

森には普通に生息しているテンですが、野生下での子育てについてはほとんど分かっていません。研究のための雌の追跡が難しいのが一因かもしれません。自然の中で動物たちがどのように生活しているのか？　動物たちの生活を理解するための調査は続きます。

田中浩（動物担当学芸員）

▽次回は10月11日です。

巣箱をにおうニホンテン

山口県立山口博物館
ＴＥＬ083－922－0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。最新情報はホームページで